

病因と病態

オーガナイザー

病理学講座 教授 江 幡 正 悟

教 員 名

病理学講座

教授 江 幡 正 悟

講師 及 川 恒 輔

講師 中 西 雅 子

非常勤講師 尾 崎 敬

I 一般学習目標

様々な疾患の成因 (Etiology) ・発生機序 (Pathogenesis) を学び、これに基づいて個体に現れる変化から病態生理 (機能の異常) と病変 (形態の異常) の関連を理解する。そして病気を診断するための基礎的な観察方法を身につける。

II 個別学習目標

1. 病理学を学ぶ意義について述べることができる。
2. 形態学的な変化を表現する病理学的専門用語を正しく用いることができる。
3. 各疾病の成り立ち・病因について、形態学的変化と関連づけて述べるができる。
4. 疾病の場としての人体各臓器の基本構造とその特徴を、疾患と関連付けて説明できる。
5. 疾患の特色より症状、症候との関連が説明できる。
6. 病気の診断に至る過程を組み立てることができる。
7. 病気の自然経過と治療による修飾が判別できる。
8. 病理総論的、臓器横断的な疾患の分類法について説明できる。
9. それぞれの臓器における代表的疾患を挙げるができる。
10. 疾患の病理学的特色とその成り立ちを説明できる。
11. 各論的疾患分類について説明できる。
12. 臨床医学における病理診断の役割と位置付けを説明できる。
13. 病理診断業務の流れを説明できる。
14. 病理学における解析法、検索法について列挙できる。
15. 迅速診断、永久標本による診断、特殊染色、免疫組織化学等を用いた診断、電子顕微鏡を用いた診断など、それぞれの病理学的解析方法の違いと特徴を説明できる。
16. 病理解剖における注意点と実際の方法を説明できる。
17. 固定法の種類とその原理、実際の使用法、使用上の注意点について説明できる。
18. 光学顕微鏡を使用して、組織標本の観察ができる。
19. 組織標本を病因と対比し、病変の成り立ちを説明できる。
20. 代表的な分子病理学的方法について説明できる。
21. 病理学分野の学術図書より学術情報を得て、その知識を整理することができる。
22. 病変の組織細胞学的特色について述べることができる。
23. 細胞の形態学的変化、特色とその機能の変化について述べることができる。

III 教育内容

講義日程表を参照

IV 学習および教育方法

学習：総論では、病変の成立機序や種類から質的な分類をし、臓器横断的な病変の成り立ちの原則を学ぶ。
各論では、総論の理解に即して、各臓器の具体的な病変を取り扱う。ただし病理学で扱う内容は広範であるため、講義や実習で解説しなかった内容は、「標準病理学」「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断」等、下記の推薦する参考書等を用いて自ら知識を深めることが必要である。

講義：講義はスライドや配布資料等を併用して行う。必要に応じてレポートや小テストを課す。

実習：各人がバーチャルスライドを用いて組織所見の観察やスケッチを行い、レポートを作成し提出する。
必要に応じて小テストを課す。

V 評価の方法

1. 講義：総論（V期）および各論（VI期）の定期試験において、どちらも60%以上の得点を必要とする。
出席が講義数の3分の2に満たない学生は受験資格を与えない。
試験は、講義・実習の内容に加えて、「標準病理学」や「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断」に記載されている中で、重要な内容を問う。
試験形式は、記述問題あるいは選択問題の形式で行う。
2. 実習：実習への取り組み、ならびにレポートを評価の対象とする。
正当な理由なく欠席した場合や、指定された期日までにレポートを提出しない場合は不合格とする。
3. 再試験：総論、各論ともに再試験は1回のみ実施するが、その可否発表は行わない。
4. 最終成績は、定期試験の結果ならびに実習評価により判定する。

VI 推薦する参考書

- | | |
|--|------------|
| ○ 標準病理学 第6版 | 医学書院 |
| ○ カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版 | 医歯薬出版 |
| ○ Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease Tenth Edition | Elsevier |
| ○ 解明病理学 第3版 | 医歯薬出版 |
| ○ Newエッセンシャル病理学 | 医歯薬出版 |
| ○ 組織病理アトラス 第6版 | 文光堂 |
| ○ ロビンス&コトラン病理学アトラス | エルゼビア・ジャパン |

講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	2月14日	月	3	オリエンテーション	病理学	江幡
2	2月17日	木	1	総論：細胞障害	病理学	及川
3	2月17日	木	2	総論：細胞障害	病理学	及川
4	2月17日	木	3	病理学実習 ①	病理学	江幡
5	2月21日	月	3	総論：炎症	病理学	中西
6	2月28日	月	3	総論：炎症	病理学	中西
7	3月3日	木	1	総論：炎症	病理学	中西
8	3月3日	木	2	総論：炎症	病理学	中西
9	3月3日	木	3	病理学実習 ②	病理学	江幡
10	3月7日	月	3	総論：感染症	病理学	尾崎
11	3月10日	木	1	総論：免疫	病理学	中西
12	3月10日	木	2	総論：免疫	病理学	中西
13	3月10日	木	3	病理学実習 ③	病理学	江幡
14	4月4日	月	3	総論：感染症	病理学	尾崎
15	4月4日	月	4	総論：代謝障害	病理学	及川
16	4月7日	木	1	総論：循環障害	病理学	江幡
17	4月7日	木	2	総論：循環障害	病理学	江幡
18	4月7日	木	3	総論：循環障害	病理学	江幡
19	4月11日	月	3	病理学実習 ④	病理学	江幡
20	4月11日	月	4	総論：代謝障害	病理学	及川
21	4月14日	木	1	総論：遺伝性疾患と先天異常	病理学	中西
22	4月14日	木	2	総論：遺伝性疾患と先天異常	病理学	中西
23	4月14日	木	3	総論：腫瘍	病理学	江幡
24	4月18日	月	3	総論：腫瘍	病理学	江幡
25	4月21日	木	1	総論：腫瘍	病理学	江幡
26	4月21日	木	2	総論：腫瘍	病理学	江幡

27	4月21日	木	3	病理学実習 ⑤	病理学	江幡
28	4月25日	月	3	各論: 消化管	病理学	中西
29	4月28日	木	1	各論: 消化管	病理学	中西
30	4月28日	木	2	各論: 消化管	病理学	中西
31	4月28日	木	3	各論: 消化管	病理学	中西
32	5月9日	月	3	病理学実習 ⑥	病理学	江幡
33	6月2日	木	1	各論: 肝・胆・膵	病理学	中西
34	6月2日	木	2	各論: 肝・胆・膵	病理学	中西
35	6月2日	木	3	各論: 肝・胆・膵	病理学	中西
36	6月9日	木	1	各論: 循環器	病理学	江幡
37	6月9日	木	2	各論: 循環器	病理学	江幡
38	6月9日	木	3	各論: 循環器	病理学	江幡
39	6月16日	木	1	各論: 脳・神経	病理学	中西
40	6月16日	木	2	各論: 脳・神経	病理学	中西
41	6月16日	木	3	各論: 脳・神経	病理学	中西
42	6月23日	木	1	各論: 腎臓	病理学	江幡
43	6月23日	木	2	各論: 腎臓	病理学	江幡
44	6月23日	木	3	各論: 腎臓	病理学	江幡
45	9月26日	月	1	各論: 血液・造血器・リンパ節	病理学	江幡
46	9月26日	月	2	各論: 血液・造血器・リンパ節	病理学	江幡
47	9月26日	月	3	各論: 血液・造血器・リンパ節	病理学	江幡
48	10月3日	月	1	各論: 呼吸器	病理学	江幡
49	10月3日	月	2	各論: 呼吸器	病理学	江幡
50	10月6日	木	1	各論: 呼吸器	病理学	江幡
51	10月6日	木	2	各論: 呼吸器	病理学	江幡
52	10月6日	木	3	病理学実習 ⑦	病理学	江幡
53	10月13日	木	1	各論: 泌尿器・男性生殖器	病理学	江幡
54	10月13日	木	2	各論: 泌尿器・男性生殖器	病理学	江幡

55	10月13日	木	3	病理学実習 ⑧	病理学	江幡
56	10月17日	月	1	各論：乳腺・女性生殖器	病理学	中西
57	10月17日	月	2	各論：乳腺・女性生殖器	病理学	中西
58	10月17日	月	3	各論：乳腺・女性生殖器	病理学	中西
59	10月20日	木	1	各論：骨・軟部組織	病理学	江幡
60	10月20日	木	2	各論：骨・軟部組織	病理学	江幡
61	10月20日	木	3	病理学実習 ⑨	病理学	江幡
62	10月24日	月	1	各論：内分泌	病理学	尾崎
63	10月24日	月	2	各論：内分泌	病理学	尾崎
64	10月24日	月	3	各論：内分泌	病理学	尾崎
65	10月27日	木	1	各論：皮膚	病理学	江幡
66	10月27日	木	2	各論：皮膚	病理学	江幡
67	10月27日	木	3	病理学実習 ⑩	病理学	江幡